

7. 腎被膜より発生した血管周囲細胞腫の1例

溝口研一, 中村 剛, 川村健二
日景高志 (東京厚生年金)

症例は29歳女性。近医にてエコー上右腎腫瘍を疑われ当科紹介受診す。画像上右腎下極に腎実質と接して存在する3cm大の腫瘍を認め、腎被覆腫瘍と診断し右腎全摘除術を施行した。組織学的に血管周囲細胞腫(hemangiopericytoma)と診断された。後腹膜腔発生例では本邦48例目だが予後不良の報告が多く悪性腫瘍として嚴重な経過観察が必要である。

8. 腎血管筋脂肪腫の検討

池田良一, 石原順就, 納谷幸男
橋本 敏, 山口邦雄 (横浜労災)

【対象】当科でAMLと診断した14例。性別は男性4例, 女性10例で, 年齢18~64歳であった。【方法】全例に超音波検査とCTを施行した。画像診断, 治療法等について検討した。【結果】4例では腎細胞癌との鑑別が困難であり, 根治的腎摘出術を施行した。腫瘍の破裂の危険があると判断した1腎に対し塞栓術を施行した。

9. 腎部分切除術を施行した Metanephric adenoma の1例

今本 敬 (千大)

62歳女性。腹部超音波検査で発見された右腎腫瘍に対し, 右腎部分切除術を施行。病理組織学的に核異型, 核分裂像を伴わない小型の腫瘍細胞の管状配列よりなる metanephric adenoma の診断であった。metanephric adenoma は病理組織像が胎児の後腎組織に類似する良性腫瘍であり, 本邦報告例では5例目と思われる。

10. 高濃度硝酸銀による腎実質壊死の1例

塩見 興, 浜野 聡, 鈴木規之
田中方士, 五十嵐辰男, 村上信乃
(旭中央)

患者は23歳の男性で, 主訴は肉眼的血尿。特異性腎出血の治療目的で0.02%硝酸銀溶液の腎盂内注入術を予定していたが, 薬剤部のミスがあり20%溶液5mlを使用してしまった。翌日より39℃台の熱発と腰痛が出現し3日後のKUBで左腎盂尿管に銀の付着を認め, 左腎機能は低下した。ステロイドを用いて保存療法を行ったが臨床症状改善せず, 3週間後に左腎摘出術を施行した。

11. PTA を施行した腎血管性高血圧の1例

小林洋二郎, 北川憲一, 村山直人
(松戸市立)

患者は21歳女性。主訴は頭痛・不眠・食欲不振。高血圧を認め, 血中レニン活性, 血中アルドステロン値は高値であった。超音波検査にて右腎の萎縮および右腎動脈の狭窄を認めた。腹部動脈造影では右腎動脈本幹中位部で全周性の狭窄を認めた。平成8年9月25日右腎動脈のPTAを施行した。術後血圧は正常化し, レニン活性, アルドステロン値も正常化した。その後3か月間の経過観察では, 血圧は安定している。

12. 単腎の腎盂腫瘍に対して BCG 腎盂内注入療法が奏功した1例

渡部 良夫, 永嶋 薫, 片海七郎
(君津中央)
藤原恭一郎 (大和クリニック)

症例: 52歳, 男性。家族歴: 弟に膀胱腫瘍。現病歴: 1982年8月初旬, 30歳の時, 無症候性顕微鏡的血尿にて当科受診。多発性膀胱腫瘍の診断でTUR-Bt施行。病理診断はpapillary TCC, G1, pTa。アドリアマイシン膀胱注施行したが, 再発を繰り返す, その都度TUR-Bt施行。右腎盂腫瘍を認めたため, 1987年2月, 右尿管全摘膀胱部分切除術施行。1995年9月, 左腎盂腫瘍を認め, これに対して腎盂内BCG灌流療法を実施。4か月後のDIPにて腫瘍は完全に消失していた。

13. 尿管エンドメトリオーシスの1例

石原順就, 納谷幸男, 池田良一
橋本 敏, 山口邦雄 (横浜労災)

46歳女性。主訴は左側腹部痛。術前にDIP, RP, CT, MRI, 尿管鏡を施行した後腹膜腫瘍と診断し, 腫瘍摘除術施行。病理は尿管子宮内膜症(extrinsic type)。術後, 補助療法としてLH-RH agonistによる偽閉経療法を行った。

14. DIC を合併した腎盂腎炎の1例

鈴木澄恵, 戸邊豊総, 富岡 進
森偉久夫 (済生会宇都宮)

症例は57歳, 男性。主訴は左側腹部痛と発熱。かつて糖尿病を指摘されたが放置していた。初診時既にDICを呈しており, 即時入院。画像上左腎は著しく腫大し, 腎盂腎杯の拡張なくびまん性腎盂腎炎を呈していた。抗生剤にて軽快せず, 左腎摘出術を施行, 術後臨床症状は劇的に改善した。